地区広報

はづ

No.37
羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会
平成11年3月20日

羽津地区文化祭開催

’99みんなで創造ろうたのしい集い

ご来場ありがとうございました。

陶芸教室

なにをつくろうかなぁ～

羽津地区人口　総数　15,253人　男　7,813人　女　7,440人　世帯数　5,513世帯（H11.2末現在）

街の緑　創・造・計・画

環境美化に　花壇づくり

センター主催の花壇づくり講座に参加した。メンバーは十六人。講師には四日市農芸高校の大久保克彦先生を迎え、九月二十六日センター会議室にて約一時間、パンジーの花壇づくりについて講義を受け、皆熱心に耳を傾ける。その後センターの裏で、トレイに養土を入れ種まきをしたが、ゴマ粒より小さな種子でつまむのに苦労する。

播種後の水の管理で二人一組となり、毎週土日の午前九時、午後四時に水をやり、管理日記を記す。日照り雨降りの苦労がある。急に雨が降ってきた場合、ビニール板等で防ぐ。

二十日ほどして双葉が出始め、十月二十五日に直径十センチの黒色のビニールのポットに移植する。数は二十四鉢入りのトレイが四十で、多少出来の悪いのもあったが、その後も交替で世話を続け、先生に見ていただいたところ、非常に良いできだとほめられ皆喜んだ。年末には葉の数が八～九枚になり、定植の時期となったため、講座の参加者の希望により、各家庭に持ち帰る。

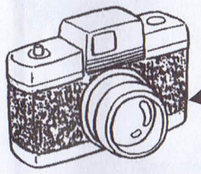
一月下旬には、わが家でも蕾が開きはじめた。参加された方のお宅ではどんな状況だろうか。種まきから始めて、鉢上げ、定植と実習し、よい体験であったと同時に、今後の花づくりにも自信がついた。

今後、皆さんも美化運動に関心を持たれて、環境の良いまちづくりに頑張っていきましょう。

花と語り合うように、再度このような講座が開かれるよう希望します。

（羽津町　藤井　金一）

JAPAN FLOWER FESTIVAL
花ふるどーむ　よっかいち



参加レポート

ジャパンフラワーフェスティバルみえ'99

大キャンパスに花の絵を制作

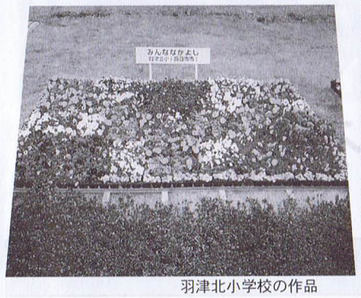
早春のドームに、いっぱいの花と、甘い香りが漂い、一足早い春の訪れであった。

ジャパンフラワーフェスティバルみえ99が四日市ドームで、二月二十六日（金）から三日間開催された。全国各地より多くの人々が訪れ、春を満喫した盛大なイベントであった。

地元として春風会会員二十名が二月二十四日（水）に雨の中作品づくりに参加、縦三m横六mの大キャンパス三枚に、山、桜、ゴンドラの絵を約五千鉢のパンジー、ヘリクリサム、アリッサムの花で大作を完成させた。

ドーム正面入口横に三日間展示され、後日花は地区の公共施設等へ贈った。花いっぱい運動を展開中の羽津として、またとないイベントに参加出来た事は、誠に有意義であった。

（春風会）



羽津北小学校の作品

会場の様子

フェスティバルに向けての準備

めざせ！まちに役立つ　スポーツ少年団！

羽津スポーツ少年団は、子どもたちに幅広い活動を行わせ、さまざまな体験をさせることで、幅広い人間形成を目指しています。

仲間意識を育てるため、各スポーツ活動を行っている団が、互いに協力してボランティア活動（空き缶拾い）を行いました。約200人の団員が羽津北小学校に集合し、指導者・保護者の方と、羽津小学校・羽津中学校・昭石グランド・城山公園・霞ケ浦公園・いかるが神社と目的地を決め、周辺及び道中の空き缶拾いをし、軽トラック二杯分の空き缶を集めました。今後も地域への貢献が出来るボランティア活動を積極的に行い、地域社会のために大きく役立っていきたいと思います。

カン拾いをして

羽津北小学校　六年　伊藤　義久

「今からカン拾いを始めます。」と号令がかかり、色々な少年団が羽津北小学校を出発していきました。ぼくら野球部は、かすみがうらの緑地まで行くことになっていました。学校を出た一本道の道路のはしのほうにたくさん草がはえていました。

ぼくは友達と三人で、みんなよりよく見ながらいったらあきカンがたくさん落ちていて拾うのが大変でした。あっという間にゴミ袋が満ぱいになり、トラックに積みました。ひろっても、ひろっても、まだまだでてきました。ぼく達は、「まだ出てくるのか。」といいながら拾っていき、気がついたらトラックの荷台にゴミ袋がたくさん積んであってその多さにびっくりしました。学校に帰ってアルミとスチールにわけて持っていってもらいました。羽津の町が少しでもきれいになったというのは、とてもいいことだと思います。これからも、一人ひとりが気をつけていけば、もっときれいな、羽津の町になると思います。

最後の奉仕作業

羽津小学校　六年　尾崎　泰佑

昨年の十二月十三日スポーツ少年団が、毎年行なっている「奉仕作業」がありました。

僕は、六年生なので、毎年行っている奉仕作業も、今回で終わりです。

最後の奉仕作業で心に残った事が二つあります。

それは、カンひろいなのに、ゴミひろいになってしまったことです。

羽津北小学校から、僕達、羽津野球少年団のホームグラウンドである。「昭石グランド」までの道にゴミがすごく落ちていたからです。特に、人の目につかない所にたくさん捨ててありました。

僕と、チームメイトは、寒いのに汗を流して道路をきれいにしようと、一生けん命ゴミをひろってひろってひろいまくりました。

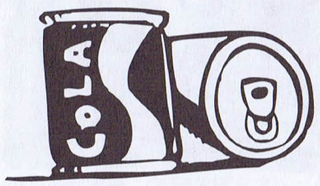
僕は、「カンひろいなのに、ゴミひろいになったのは、どうしてか？」と言うと、「捨てる人は、モラル（道徳心。人として守らなければいけない正しい行い）がないからだ。」と思います。

二つ目は、役員の方々に、お菓子や、とん汁、ビンゴなどを用意してもらったことです。とん汁はおいしかったし、ビンゴは楽しかったし…。おかげでまた新しい友達もできました。

僕は、「最後の奉仕作業は、つかれたけど、とん汁などがおいしかったし、ゲームが楽しかったし、最後はすごく良かったな。」と思いました。

役員の方々、本当にありがとうございました。

僕は、小学三年生から、野球を始めていろんな体験をしたり、力が付いたりしました。僕は本当に野球をやっていて良かったと思います。中学になっても、もっといろんな体験をするために、野球を続けていきます。



『ダメ　ゼッタイ』は薬物乱用防止の合い言葉

文化とスポーツの出合う街　はづ

地区運動会開催
800人が健脚競う

秋晴れのもと羽津地区秋季大運動会が羽津小学校で開催されました。地区住民の健康とふれあいを高めることを目的として毎年開催されています。

それぞれ個人の持ち味と町別の粘りある競技を楽しみ、盛んな声援がとんでいました。

ゲートボール大会を
ふり返って

晩秋というには、温かく感じられた11月29日（日）、羽津小学校グランドにおいて、第14回羽津地区ゲートボール大会が行われました。

今までの大会は参加者が年々少なくなってきていましたが、今回はたいへん参加者が多く、4コート12チームが競技を楽しみました。

朝9時より開会式、続いて試合が始まり、予選通過はやはりベテラン勢が多く、好ゲームもありました。

高年齢者の方々の参加が多く、スポーツ日和の中、子供達と世代間を越えたふれあいや、スパークの方向、ゲーム通過のポイント、玉の置き方等、ベテランと初心者との交流が見られました。

チーム同志、勝負に一生懸命プレーし、みなさん有意義に楽しんでいただけたと思います。

（健康推進部会）

みんなで楽しく歩こう

初冬の日曜日、天候にめぐまれ多数の参加者が羽津小学校に集合しました。

小学生、中学生の友だち同士近所の仲間、中年の夫婦若い夫婦、家族づれ等、年齢に関係なく楽しめるスポーツがウォークラリーです。

青少年育成部会が一ケ月程かけコースの下見など準備をし、当日を迎えました。

コースを廻ると、日頃見なれた道なのに、ゆっくり見わたすと色々な発見があります。それぞれのグループで新しい楽しみをみつけたのではないでしょうか。友だち同志で話しをしながらコースをまわるのも一つの楽しみです。子どもの遊び範囲がわかったりコミニュケーションをとる良い機会にもなります。楽しく廻って来たゴールでは、あたたかい豚汁のごちそうです。当日青少協の本部が三百食の豚汁を用意しましたが、到着するとたちまち大なべはカラッポの状態です。「おいしかった」との評判で、作った人達も大喜びでした。

ウォークラリー、ぜひ一度参加してください。歩いてみると、一段と楽しさがわかりますよ。

（青少年育成部会）

文化祭

次世代に伝えたい豊かな郷土

春色なごやかに盛大な文化祭が開催され、羽津を中心に活動する文化団体が、日頃の成果を3月6、7日の両日にわたって発表されました。

明日への確かな活路を開く羽津地区文化祭も本年度で第19回を重ねてまいりました。

これらの実績や地区内のたくさんの作品並びに各趣味の熱演が多くの人達を引きつける力となり、羽津の新しい活力となって、それぞれの役割を果たすことができ、本当に有意義な文化祭であったと思います。

羽津には羽津特有の力が存在する。それは、世代間をつなぐ文化の力、教育の力、生活の知恵であり、急激な経済成長が奪い去った近年において、地域の力をいま再考する時期ではないかと痛感します。

二日間の文化祭が盛況のうちに終わり、この輪を人の和につなげ次世代に伝えるべき、豊かな郷土発展に寄与することができました。

関係各位のご協力に感謝申しあげます。

（広報文化部会）

羽津情炎太鼓

おりがみ教室

ちびっこ消防広場

スポ少5部活動

6年サッカー部　県大会出場

羽津野球部　三泗駅伝大会第二位

剣道部　練習を終えて

バレーボール部　県新人大会優勝

羽津北野球部　秋期大会決勝戦出場

防火への誓い新たに

消防出初め式

陸海空合同で1200人参加し、富双埠頭周辺で開かれました。羽津消防分団員も勇壮で力つよい行進を披露してくれました。まだ記憶に新しい阪神・淡路大震災を教訓に、出席した各自治会長も、強いまちづくりを推進していく決意と防火の誓いを新たにしました。また、羽津文化幼稚園児らによるはしごや、まといを使った演技も披露され、上空の防災ヘリからレスキュー隊員が降下し、幼稚園児にプレゼントを手渡した後、消防車と消防艇が陸と海から一斉に放水して終わりました。

独居老人の集い

楽しかった一人ぐらしの集い

昨年十一月十三日（金）に市民センターで、「一人暮らし老人の集い」の食事会が行われました。一人暮らしとはいえ、大変元気な方ばかりで、大勢のかたが集まりました。当日は多くのボランティアの方が、腕によりをかけておいしい食事を作ってくれました。見ていてもおいしそうで、体に適したカロリーに計算され、バランスのとれた献立が出されました。栄養士の先生の指導により肉、魚、野菜等を使って高齢者むけにつくっていただいた彩り良い料理でした。参加した私もとてもおいしくいただきました。普段一人で食事しているのと異なり、大勢の方が一堂に会して食べるおいしさ、楽しさも大切なことだとも感じました。食事のあと、手品、ひょっとこ踊り等多くの催物に、楽しく腹を抱えて大笑いの一時を過ごしました。

私達が生きていくうえで一番大切なことは「笑い」です。多くの方が何もかも忘れ、楽しい笑いの一日を過ごさせていただきました。私もこの日を通じて多くの事を勉強させていただき今後の生活に生かしたいと思いました。最後に食事会に携わってくださった方々に御礼もうしあげます。

（民生委員　久志本貞子）

萌乃里慰問

喜んでもらった友愛訪問

四日市市内でも大きな組織である羽津地区老人クラブ春風会では、女性部が毎年二回萌乃里を訪問しています。

ある晴れた日の日曜日、匂い袋を作って、お誕生会の慰問に持っていきました。

三春盆歌や、北海盆歌を披露すると、皆さん手をたたいて喜んでくださり、出かけた甲斐があったというものです。

これからも慰問は続けていきます。

（春風会女性部）

活性化への教え

平成10年度社会教育推進員研修会開催

日　　時：平成10年11月5日（木）
研修場所：近江八幡市総合福祉センターとその周辺
参 加 者：田中逸夫・山下　英

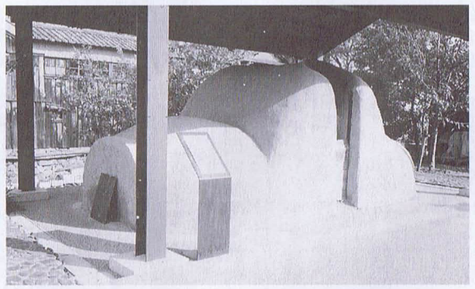
商いの町　近江八幡

①　近江八幡市の概況・面積七六、九七㎢、人口約七万人、特産品、木珠・葦製品・八幡瓦・押絵、今から約四〇〇年前（一五八五年）豊臣秀次が八幡山に城を築いて以来、近江商人の町として栄え、活気溢れる商業都市として発展してきた近江八幡。琵琶湖に通じる運河、八幡堀や、落ち着いた瓦屋根とヴォーリズ（メンターム で有名な近江兄弟社を創立したアメリカ人）の手になる洋風建築との見事な調和は、この町ならではの魅力だろう。

近江八幡市は商人の本拠地だけに、立派な町並みがつづき、更に水郷など、風光明媚に恵まれ、絶えず変化しなくてはいけないという意識が伝わる意気込みを感じた。各街角には絵になる空間を見ることができ、小さいながら夢のある近江八幡市であると思う。

②　近江八幡市八幡堀・周辺地域…滋賀は自然いっぱい琵琶湖と城下町を結ぶ八幡堀は琵琶湖水運の要衝として設けられたものであり、白壁の土蔵や旧家が立ち並ぶ格好の市民の散策コースになっている。

近江商人の里として名高かく、水郷と田園地帯が広がり、商人たちの屋敷が昔ながらのただずまいを残す素敵な街である。



◆研修所感

近江八幡市の街の活性化は足元から始まると同時に、俊敏な行動が原点にあることを思い知らされた感じだ。

①スピードの重視、②経営の透明性、③人間の尊重、それぞれの立場でしっかり理解して、いずれも市民の声いきいき提案制度により寄せられたアイデアを具体化としたもので、イキイキと仕事をしている姿が印象的であった。

イキイキしている瞬間とは「個の尊重」ではないかと痛感する。

看板が立ちました

二月十四日、社会福祉協議会環境交通安全部会を中心に安全協会羽津支部、連合自治会長等の方々に協力をいただいて、『花と緑の町づくり』の一環として整備されてきた通称「あじさい通り」（羽津小学校東通り）「あじさい街道」（羽津北小学校南通り）と羽津会館の壁画の横、三ヶ所に看板を立てました。

通りに植えられたあじさいは、新しい芽が出て、すくすくと育ち季節にはきれいな花を咲かせてくれています。

花と緑が一杯の羽津地区を目指して、大切に育てたいとの願いを込めて立てられた看板です。暖かい日にでも、お散歩にいかがですか。

三月二十一日には城山公園にもあじさいの植樹を予定しています。

（環境交通安全部会）

『羽津』なる地名

私達の生活から「地名」が無くなったら、どんな状況になるのだろうか。と、考えてみると「地名」ほど人間の生活に密着しているものはない。

地名の由来を考えると、その九十％以上が自然地形にある。しかし、長い歴史の中で地名は、人為的に変遷する。その一例に「生桑」町を考えてみる。昭和六十一年、学習院大学名誉教授・四日市市史編纂監修者の児玉幸多先生を市内各所に案内していた時、看板の「生桑町」を目にされ、「何と読むのかね」と尋ねられた。ごく自然に「いくわ」と返答したが、市外の人には大変珍らしく感じる地名である。生桑は元来、鍬の柄を製作していた部族集団の生活空間と考えられる。それは、次の史料から推察されるからである。平安時代初期の文書に『多度神宮寺伽藍縁起并資財帳』(多度大社蔵、延暦二十(八〇一)年)がある。その一文に「三重郡六條五鍬•柄里七海辺田玖段陸拾歩荒」があり、文中の「五鍬」が「生桑」に転じたものと考えられる(傍点筆者)。

さて、「羽津」の地名は何に由来するのであろうか。自然地形に由来するのか、それとも歴史的な由緒深い地名なのか考えてみたい。

全国に「はす」・「はず」・「はづ」と称する地名には、多くある。①はす・波須・岐阜県大垣市、②はず・波豆・兵庫県宝塚市、③はず・幡豆・愛知県幡豆郡幡豆町、④はつ・初・福岡県志摩町、⑤はつ・波津・福岡県遠賀郡岡垣町、⑥はづ・波津・静岡県榛原郡相良町、⑦はづ・羽津・三重県四日市市が知られる。これらの地名由来を調べていくと、はずれとか地の先端、波立つ岬など自然地形から生じた地名がほとんどである。なかには、福岡県の初や波津は、神功皇后伝説に因む歴史性を帯びた地名もある。私達の住むこの羽津(波津とか幡豆とも書く)は、地名由来として自然地形の地の先端あるいははずれから生じたとする説と杖部(はべ)が羽津に転訛したともされる。自然地形の由来説をとるならば、確かに志氏神社を先端として伊勢湾に突き出した状況がある。

杖部を地名由来とするならば、いろいろと史実を探求し考察を加える必要がある。

全国の杖部郷名を調べて見ると、平安時代の「和名抄」によると、「丈部郷」・「丈部荘」が中心で「杖部郷」とあるのは、ここ伊勢国朝明郡の六郷のうちの一つである。

丈部郷として知られるのは、岩手県・栃木県・千葉県・富山県が知られる。丈部も杖部も職業集団で杖の製作に従事した人々の居住地域である。

「和名抄」には、伊勢国朝明郡のみが杖部で他は丈部と記録されている。「和名抄」の高山寺本では、杖部を「波世津加へ」と訓読しており、東急本では、「鉢世都加倍」と訓読している。この杖部郷が現在の朝明川流域の内、どのあたりになるのかは不詳である。今の羽津地域一帯は、額田郷とされ、杖部郷は、菰野町永井、四日市市西村町、中野町、市場町、小牧町一帯が比定されている。

十四世紀の『神鳳抄』には、残念ながら「羽津」の地名は見られない。十五世紀初頭の応永十二(一四〇五)年の『延宝伝燈録』に初めて「羽津山正法寺開山良秀寂す」の中に「羽津」の地名が出て来る。室町時代になって、私達の住むこの「羽津」地区がようやく、現在の地名と一致し、当時は、羽津浦などと称されて湊を持っていたことや、赤堀氏一族に羽津氏の名が出て来る。伊勢神宮(内・外宮)との争いの史料などや域跡の存在から街村を形成していた様子がうかがえるのである。羽津の地名由来はさて自然地形によるのか歴史的な意味があるのか。

(羽津町　森　逸郎)

シイタケ栽培に挑戦!!

Challenge

一月末の三日間、羽津中学校の一年生が羽津山緑地でシイタケの菌打ちに挑みました。学級ごとに里山の中に入り、造園業者や公園事務所の人たちにも手伝ってもらって作業を進めました。最初は「なんでシイタケづくりなの?」という声もありましたが、慣れない手つきで電動ドリルで穴を空けたり、シイタケ菌をこならの丸太に打ちこむなかで、「時間がたつのも忘れるほど楽しかった」「心に残る体験だった」「事務所の人々に優しく丁寧にアドバイスしてもらった」など、生徒たちは教室では学ぶことができない貴重な体験を語っています。

半年後には本組みをし、二年半に本格的にシイタケが採れるとのことです。羽津山での収穫祭が今から楽しみですね。(羽津中学校だよりから)

編集後記

一九九九年が明け、いよいよ新年のスタートをきりました。

厳しさを増す市の行財政改革などにより、言葉でなく実行が是非とも必要な年であります。継続は力なりといいますが、何事も継続するかしないか、このことは、努力するかしないかで結果が判明するものです。

私達の羽津地区も社会を変える積極的な構えをどうつくり出していくかこれからの最大の課題であります。皆様のご意見並びに人と人とのつながりの充実へむけた意見などいただければ幸いです。

(広報文化部)